28

日本－ASEAN を結ぶ
ー 逐次刊行物データベース共有プロジェクト紹介 ー

京都大学東南アジア地域研究研究所
情報処理室

初日午前のシンポジウムでは、各国の国立図書館（national library）による各国図書館事情のジェネラル・レポートと、これに対する大学・研究機関図書館側（academic library）からコメント及び補足説明が行われました（日本からは、national library として国立国会図書館関西館アジア情報課がジェネラル・レポートを、academic library として本学附属図書館がコメント及び補足説明を行いました）。

初日午後から２日目には、資料情報整備のための書誌コントロール、図書館データベース構築、資料保存の３つの実践型ワークショップを実施し、さらに総括に代えて３つのワークショップへの参加者からのフィードバック及び図書館スタッフ間の情報交換会を行いました。

今回の企画に至る背景として、「東南アジア逐次刊行物データベース」開発プロジェクトがあります。本研究所は、2006 年から国内アジア研究拠点図書館との協力で始まった「東南アジア逐次刊行物資料共有化プロジェクト」を主導し、当初は、図書館の蔵書構築のためのコアジャーナル選定ツールとするべく、このデータベース開発に取り組んできましたが、2013 年よりその方向性を大きく変え、単に日本国内図書館内で利用するツールではなく、東南アジア諸国に散在する新聞・雑誌といった逐次刊行物を一望することで各国の研究者が資料にアクセスでき、データベースに収録されている資料情報（書誌情報・所蔵情報）というメタデータそのものを研究資源とみなし東南アジア地域社会の出版思潮を分析する国際的な地域研究ツールとしての使用に耐えうるよう、アップデートを進めてきました。

東南アジア逐次刊行物データベース
https://info.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/sealib/?lang=ja&db=ext

デスクトップ画面

スマートフォン画面

また、このデータベースに収録された資料情報を利用して、資料情報の共有だけでなく、資料自体を国際的に共有できるシステムの構築にも取り組んでいます。具体的には、ISSI が管轄する図書館と東南研図書室の間で、新聞・雑誌などの逐次刊行物について、E-DDS（Electronic Document Delivery System）、すなわち双方の所蔵する資料を相互で利用し、デジタル媒体による資料複写相互利用による資料共有が可能となるシステムを計画しています。

ラオス・ルアンパバーンに行ったら、市立図書館に寄ってみませんか？

トゥクトゥクやボートの移動図書館が村々の小学校を回って本を届けたり・読み聞かせの会を開いています。移動図書館は、ラオスの子供たちの基礎教育・識字教育に大きな役割を果たしています。

＜住所＞
図書館は、ナイトマーケットの正面にあります
＜連絡先＞
thantasoy@yahoo.com

ボートの移動図書館です